

YOUNG POLAND 1890-1918 *Polish Art*

若きポーランド

「色彩と魂の詩^{うた} 1890-1918」

2025年3月25日(火)ー6月29日(日)

開館時間：10時-18時(金曜日は20時まで) ※入館は閉館の30分前まで

休館日：月曜日(ただし5月5日は開館)

主催：京都国立近代美術館、クラクワ国立博物館、NHK京都放送局、NHKエンタープライズ近畿、京都新聞
名誉後援：ポーランド共和国文化・国家遺産大臣 後援：ポーランド共和国外務省、日本外務省
協力：ポーランド広報文化センター 制作協力：NHKプロモーション

京都国立近代美術館 [岡崎公園内]



情熱、
未だ滅びず

描かれた。ポーランド

―マテイコとマルチェフスキ
Depicted Poland – Matejko and Malczewski

祖国ポーランドの自由や独立について公に語る事が許されなかつた時代、文化芸術はそれを代弁する特別な役割を担いました。ここでは、絵画に表現されたポーランドの姿を、19世紀後半に活躍したヤン・マテイコと、その次の世代にあたるヤツェク・マルチェフスキの二人の作品を軸に紹介します。

自然と芸術

―魂の情景
Nature and Art – State of the Soul



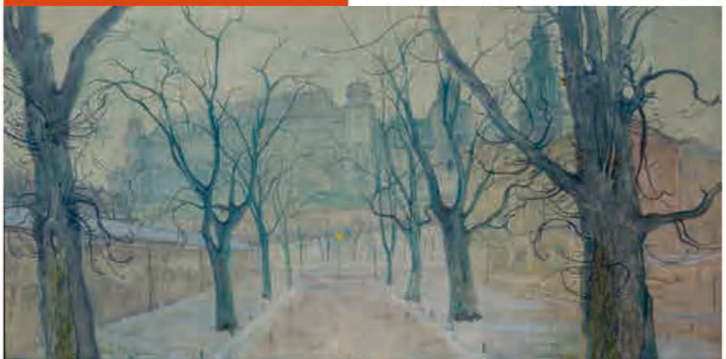
ヤン・マテイコ (1683年、ウィーンでの対トルコ軍勝利伝達の教皇宛書翰を使者デンホフに手渡すヤン3世ソビエスキ) 1880年、クラクフ国立博物館蔵 Jan Matejko, John III Sobieski Hands Canon Denhoff a Letter to the Pope with the Message of the Victory over the Turks at Vienna in 1683, 1880, National Museum in Kraków



ヴォイチェフ・ヴァイス《ケシの花》1902年、個人蔵 Wojciech Weiss, Poppies, 1902, Private Collection



ユリアン・ファウト《冬景色》1915年、クラクフ国立博物館蔵 Julian Fałat, Winter Landscape, 1915, National Museum in Kraków



スタニスワフ・ヴィスピャンスキ《夜明けのプランティ公園、クラクフ(ヴァヴェル城を臨むプランティ公園)》1894年、個人蔵 Stanisław Wyspiański, Planty Park in Kraków at Dawn (Plants with a View of Wavel Castle), 1894, Private Collection



ヤツェク・マルチェフスキ《フェリクス・ヤシエンスキの肖像》1903年 Jacek Malczewski, Portrait of Feliks Jasieński, 1903, National Museum in Kraków

日本との架け橋

―フェリクス・マンガ・ヤシエンスキ
Acting as a Bridge to Japan
― Feliks "MANGGHA" Jasieński

作家評論家であり、北斎漫画にちなんで自ら「マンガ」と名乗るほどの日本美術コレクターであったフェリクス・ヤシエンスキは、〈若きポーランド〉の芸術家たちと親密に交流し、作品購入などを通じて彼らの活動を支援しました。ここでは〈若きポーランド〉の画家たちが描いたヤシエンスキの肖像画を通じて、彼らの交流の一端をご覧いただけます。

インスピレーション源 としての日本

Japan as a Key Source of Inspiration



レオン・ヴィチュウコフスキ《日本女性》1897年、クラクフ国立博物館蔵 Leon Wyczółkowski, Japanese Woman, 1897, National Museum in Kraków

〈若きポーランド〉の画家たちは、西欧のジャポニスムから知識を得るだけでなく、西欧各地で日本美術を実見し、さらにヤシエンスキと彼のコレクションを通して日本美術に対する理解を深め、自らの作品に反映させました。とりわけ、先駆的的女性画家のオルガ・ポズナンスカの作品には、日本との直接的ないく間接的対話の様性が顕著にみとめられます。



ワウディスワフ・シレヴィンスキ《髪を梳く女》1897年、クラクフ国立博物館蔵 Władysław Ślewiński, Woman Combing Her Hair, 1897, National Museum in Kraków

フォークロア

―国民様式の色彩豊かな故郷
Folklore
― National Style inspired by a Colourful Homeland



スタニスワフ・ヴィスピャンスキ [デザイン]、ザンチェク&ランコシュ、ケンティ [布地製作]、ヘレナ・チレムガ [刺繍]《ゼラニウム様式の刺繍があるヘルメット》、1904年頃、クラクフ国立博物館蔵 Stanisław Wyspiański [design]; Zajączek & Lankosz Partnerships in Kęty [fabric maker]; Helena Czeremuga [embroidery], 'Geraniums' Embroidered Pelmet, c. 1904 National Museum in Kraków



スタニスワフ・ヴィスピャンスキ [デザイン]、アンジェイ・シドル [製作]《椅子》、1904-05年、クラクフ国立博物館蔵 Stanisław Wyspiański [design]; Andrzej Sydor [maker], Chair, 1904-05, National Museum in Kraków



ヴウオジメジシュ・テトマイェル《芸術家の家族》1905年、クラクフ国立博物館蔵 Włodzimierz Tetmajer, Artists' Family, 1905, National Museum in Kraków

〈若きポーランド〉の芸術家たちがポーランド独自の芸術を模索する中でよりどころとしたのは、農村や山岳地方の風景と文化習俗であった。彼らは応用芸術にも熱意を傾け、地方に残る伝統的な文様や建築の意匠にインスピレーションを受けたテキスタイルや家具を生み出しました。

近代に向かつて ―新たなポーランドの誕生 Toward Modernity – Birth of New Poland

VI

1905年のロシア第一革命は、ポーランド独立の機運を高める契機となりました。そして1918年、第一次世界大戦の終結をもって、ポーランドは独立を回復します。この時期の〈若きポーランド〉の作品には、当時の高揚した気分が反映されています。しかしそれは同時に、失われた祖国のアイデンティティの表現という芸術の使命が終焉したことを意味していました。



ヤツェク・マルチェフスキ《ピューティアー》1917年、クラクフ国立博物館蔵 Jacek Malczewski, Pythia, 1917, National Museum in Kraków

●関連イベント……「講演会」

演題…大いなる未来にむかつて―若きポーランドと1900年頃のポーランド美術(仮)
講師…ウルシユウ・コザコフスカ(クラクフ国立博物館学芸員/近代美術部門長/本展企画者)
日時…2025年3月25日(火)17時〜18時30分(予定)
場所…京都国立近代美術館1階講堂

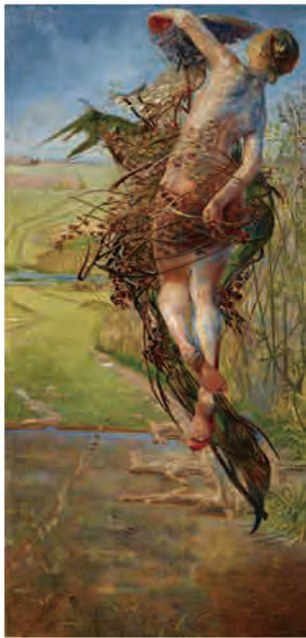
そのほかコンサート、講演会、映画上映会など様々なイベントを実施予定です。詳細・最新情報は展覧会公式サイトにてご案内いたします。



レオン・ヴィチュウコフスキ《スタンチク [人形劇]》1898年、クラクフ国立博物館蔵 Leon Wyczółkowski, Stańczyk [Puppet Show], 1898, National Museum in Kraków



ヤン・マテイコ《画家の啓蒙》、1897年、クラクフ国立博物館蔵 Jacek Malczewski, The Inspiration of the Painter, 1897, National Museum in Kraków



1785年、ロシア・プロイセン・オーストリアによる分割以降、123年の間独立を失ったポーランド。国を失った人々が自らのアイデンティティの拠り所としたのが、芸術そして文化でした。その中心地として重要な役割を果たしたのが、古都クラクフです。19世紀後半、ポーランドの歴史や文化的逸話を大きなスケールで描き名声を博したのがヤン・マテイコです。クラクフ美術学校教授を務めた彼のもどからは、数多くの若き芸術家たちが巣立ちます。彼らは、祖国の独立を願いつつ、そこに自らの心情を結びつけ、象徴性に富み色彩豊かな独自の芸術を広い分野で展開しました。〈若きポーランド〉と呼ばれた彼らは、同時代の西欧の美術や浮世絵などの日本美術を貪欲に吸収しつつ、地方に残る伝統文化を発見・再解釈しながら、ポーランドの「国民芸術」の在るべき姿を模索しました。本展では、マテイコを前史とし、〈若きポーランド〉が生み出した芸術を包括的に、日本で初めて紹介します。

本展はクラクフ国立博物館の全面的な協力のもと、クラクフ国立博物館を筆頭に、ワルシャワを含む複数の国立博物館や多くの個人所蔵家から招来した、マテイコそして〈若きポーランド〉の数多くの絵画ならびに版画、家具やテキスタイルなどの工芸品を含む約130点によって、前世紀転換期に花開いたポーランド美術の真髄をご覧ください。

In 1795, Poland lost its independence for a period of 123 years after the nation was partitioned between Russia, Prussia, and Austria. The people, who had lost their country, turned to the arts and culture as a source of identity. It was the ancient capital city of Kraków that played a significant role as a cultural centre during this period. In the latter half of the 19th century, Jan Matejko earned fame by depicting Poland's history and cultural narratives on a grand scale. Numerous young artists emerged from his tutelage at the Kraków Academy of Fine Arts. These artists, while yearning for the independence of their homeland, intertwined their personal feelings with this desire, creating unique artistic expressions rich in symbolism and tonality across a wide range of fields. Known as the "Young Poland" movement, these artists avidly absorbed Western art of the era as well as ukiyo-e and other forms of Japanese art, while rediscovering and reinterpreting what remained of local traditional culture to explore what the national art of Poland should be. This exhibition is the first comprehensive introduction in Japan of the art created by the "Young Poland" movement, preceded by the influential work of Matejko. This exhibition is held with the full cooperation of the National Museum in Kraków and is supported by a grant from the Ministry of Culture and National Heritage of Poland. It features some 130 pieces, including numerous representative paintings, prints, furniture, and textiles by Matejko and the "Young Poland" movement, gathered from several national museums, including those in Kraków and Warsaw, and many private collections. Visitors will be able to see the essence of Polish art that blossomed at the turn of the last century.



- ① オルガ・ボズナンスカ《菊を抱く少女》
1894年、クラクフ国立博物館蔵
Olga Boznańska
Girl with Chrysanthemums
1894, National Museum in Kraków
- ② ヤツェク・マルチェフスキ《春》
1898年、クラクフ国立博物館蔵
Jacek Malczewski
Spring
1897, National Museum in Kraków
- ③ テオドル・アクセントヴィチ《ヨルダンの祝祭》
1895年、ワルシャワ国立博物館蔵
Teodor Axentowicz
Feast of Jordan
1895, National Museum in Warsaw

本展は、ポーランド共和国文化・国家遺産省の助成を受けて実施します。
関連イベントの開催も予定されています。
Co-financed by the Minister of Culture and National Heritage of the Republic of Poland.
Project within the framework of the accompanying events of Poland Pavilion
at Expo 2025 Osaka, Kansai.



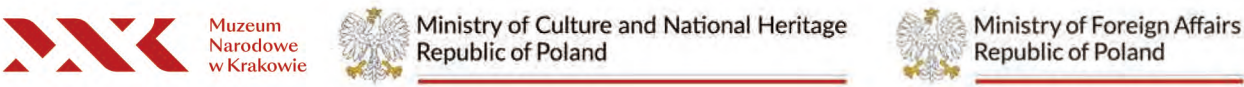
ナビゲーター：
岡本信彦さん(声優)

【音声ガイド】
〈若きポーランド〉の芸術家たちが残した数々の作品と文化の動き、その奥深い歴史をわかりやすくご紹介します。
会場レンタル版：貸出料金 650円
アプリ配信版：配信料金 650円 (iOS/Android)

【見どころ……】

- ポーランドの美術、その真髄を知る機会
- ポーランドと日本、知られざる深い関わり
- 約9割の展示作品が日本初公開!

観覧会公式サイト
<https://youngpoland2025.jp/>



Poland.
Expo2025.Osaka.Kansai



京都国立近代美術館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町
075-761-4111 <https://www.momak.go.jp/>
観覧料＝一般 2,000円(1,800円)、大学生 1,100円(900円)、高校生 600円(400円)
※()内は前売と20名以上の団体料金
※中学生以下、ひとり親家庭の世帯員の方、心身に障がいのある方とその付添者1名は無料(入館の際に証明できるものをご提示下さい) ※本料金でコレクション展もご覧いただけます。
※前売券は1月23日(木)～3月24日(月)までの限定販売
主な販売場所＝美術館公式オンラインチケット、チケットぴあ[Pコード: 687-145]、ローソンチケット[Lコード: 56823]、CNプレイガイド、セブンチケット、京都新聞文化センターほか

